

夢と希望あふれる
市民社会をつくるために

2012年度（平成24年度）
認定NPO法人 宝塚NPOセンター
事業報告書



TAKARAZUKA NPO CENTER

ご挨拶

宝塚NPOセンターにとって昨年度は記念すべき年になりました。
兵庫県下で最初の認定NPO法人に生まれ変わったことです。
経営不安定な事業体から市民活動を促進する安定した中間支援組織として認められたことは、この上ない榮譽のあることです。市民活動を志す多くの団体が安心して頼ることのできる支援組織に成長する道のりは遠いですが、会員の皆さんともども役職員は「市民活動の交差点」を目指して挑戦していきたいと思います。
多くの市民が交わり語り合う「井戸端会議」を開催したこと、地域課題に取り組んでいる但馬地域を応援したこと(新しい公共事業)などに取り組んできました。今年度には新たに「地域若者サポートステーション事業」に着手します。働き方や暮らし方、そして人々の繋がり方が大きく変わってきた地域社会のビジョンを変える実践のひとつとして取り組んでいきます。NPOを応援することを任務とする中間支援組織の夢は、NPOにつながる会員の皆さんと市民社会づくりに関わる喜びと感動を分かち合うことです。社会に参加しにくい人々、社会に貢献したいと願う人々を包み込む、懐の深い福祉社会こそ本当の市民社会だと、その夢と志を忘れず邁進していきたいと思います。



理事長 牧里每治

平成24年度事業のふりかえり

新しい風が吹き始めたことを実感させた平成24年度でした。

ひとり一人の職員が自分の持ち場をしっかりと務めながら、全員で大きな流れを作る…そのような1年でもありました。NPOセンターの歴史に比較するとNPOでのキャリアの短い者が集まっている組織ですが、センターはまるで多種多様な植物が生態系を作っている森の様な組織に生まれ変わりつつあります。

その成果の一つとして、昨年12月には兵庫県が認定する第1号認定NPO法人に認定されたことがあります。これは、宝塚NPOセンターが設立した平成11年から14年間の成果と2年前から始めた組織改革が実を結んだものと考えています。

また、「宝塚市市民活動促進事業」で毎月1回開催される「きょうどう井戸端会議」では、市民の皆さんと一緒に笑い、悩み、考えていく良い時間を持つことができました。この会議の中から「宝塚の宝を探す」マップを地域の皆さんと一緒に作れたことは大きな成果です。

「宝塚市就労支援事業」には15名の若者の参加があり、この事業が定着しているのを実感しました。近年、兵庫県から受託している「生きがいごとサポートセンター事業」就労部門においては、一度も就労経験のない、あるいは就労したが数年で辞めてしまい、その後就労に一歩踏み出すことに不安を感じている若者の就労が課題になりました。そこで、この部門を強化すべく平成25年度は「地域若者サポートステーション事業」を厚生労働省より受託致しました。

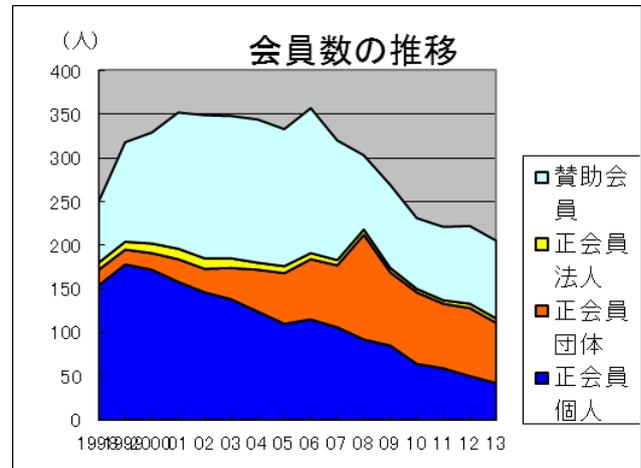
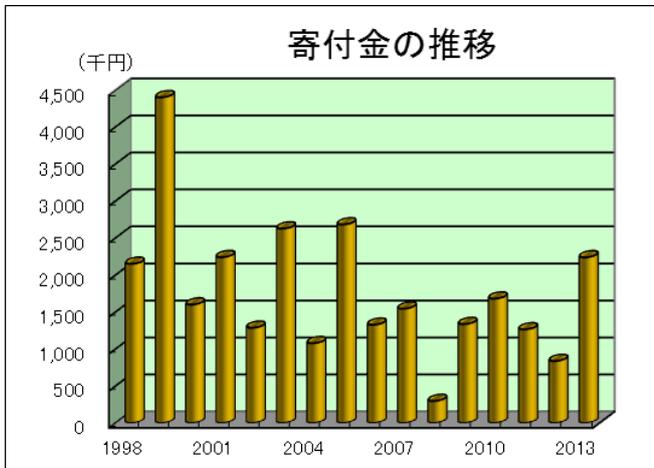
若者に関する事業では、川西市から「若者の自立支援事業」を受託。この事業は①保護者向けシンポジウム②里山体験③若者のトークセッションの3つのプログラムを通じ川西市の若者を元気にする事業です。特に保護者向けプログラムの「若者のいまを考えるフォーラム」では精神科医齋藤環氏の講演会を開催し、222名のご参加をいただくなど多くの方に若者の抱える現状を知っていただく機会となりました。また、里山体験でお世話になった川西市黒川地区の皆さんと良い関係が築けたことは、緊急雇用期間を終え社会に出ていく20代の職員にとってとても良い経験でした。

「生きがいごとサポートセンター事業」では、新規団体が32法人(新規団体24法人 拡充団体8法人)となりました。分野としては高齢者・障害者支援などの福祉関係が1/3程度ありますが、時代を反映した再生エネルギーや子ども教育、子育て支援、伝統芸能、アートなどバラエティーに富み、NPOのすそ野の広がりが感じられました。また、「地域づくり活動支援事業」で支援を行った但馬地域では、地域課題の解決に向けて住民自らが立ち上げたNPOや、但馬の中間支援として活動する法人が生まれ、地域に新しい動きが出てきたことは大きな成果です。

東日本大震災支援では、2年前から継続している「お茶っこカフェ」にのべ155名の方が参加。その中から「仕事が見たい」との声をキャッチし「避難者のための就労支援講座」を開催しました。5回の講座終了後に仕事を始めた方もおり、小さな声を聞き取り、形にすることができたことを嬉しく思っています。

「市民が市民社会をつくる」というミッションのもと、多くの事業を実施した1年でした。平成25年度は職員が8名増員となり14名体制になります。14名の実力を足し算する組織ではなく、それぞれの実力を掛け算してより良い市民社会をつくる組織として進んでまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

宝塚NPOセンター啓発事業



(1) 寄付

2013年3月末で15年月間の寄付金総額は23,985,357円となりました。
2013年度の寄付金は29件(23個人・6団体・企業)で2,238,862円の寄付をいただきました。

(2) 会員

2013年3月末の会員数は205名(正会員個人:40 法人:4 団体:69 賛助会員:90)です。昨年に引続き休眠会員を整理させていただいたため会員数は減少となりました。今後も正会員・団体会員に入会いただくため、きめ細かな個別相談活動・法人の設立から運営までのサポートを充実し、会員数の増加につとめてまいります。

(3) ボランティア

2013年度のボランティア時間は3,402時間と昨年より若干減少しています。しかしこのボランティア時間は常勤職員の1年の労働時間に換算すると約1.5人分となり、無償役務を金銭化すると約250万円の寄付に相当します。ボランティアの皆さんの当センターでの活動は欠かすことが出来ず、重要な活動の一部を占めていただいています。今後とも多くのボランティアの皆さんとともに市民活動の交差点としてのセンターを目指したいと考えています。

(4) 講演

月日	テーマ		担当
4月25日(水)	NPOの活動と実践	阪神シニアカレッジ宝塚学習室	中山
6月27日(水)	宝塚におけるNPO活動	関西学院大学	中山
6月27日(水)	NPO法人の設立、運営について	阪神シニアカレッジ伊丹学習室	若林
7月12日(木)	地域づくりスキルアップセミナー	宝塚市総合福祉センター	中山
10月6日(土)	はじめてのNPO	東大阪市役所	若林
11月7日(水)	コミュニティとは	阪神シニアカレッジ伊丹学習室	中山
11月7日(水)	コミュニティビジネスとは	阪神シニアカレッジ伊丹学習室	中山

(5) 自主企画 「保護者のためのキャリアセミナー」

- ◆ 日 時 7/29
- ◆ 会 場 宝塚市立男女共同参画センター
- ◆ 講 師 井村 良英 氏
- ◆ 参加者 92 名



「日本一ひきこもりを就職させる男」と中央公論8月号に紹介された井村良英氏(NPO法人育て上げネット・たちかわ若者サポートステーション所長)を講師に迎え、課題を抱える若者の保護者対象に「保護者のためのキャリアセミナー」を開催しました。

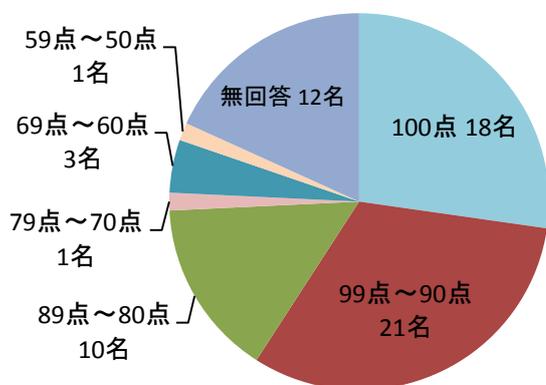
宝塚市受託事業「若者就労支援プログラム」に定員を超えた申込みがあったこと、兵庫県受託事業「生きがいごとサポートセンター事業」に一度も働いたことのない30代40代の相談者が増加したため、保護者に対してNPOセンターができることはないかと企画しました。

参加者は92名。70代後半のご夫婦やお父様だけの参加など、これまでのセミナー参加者とは異なる層の申込みがあり、この課題の奥深さをうかがわせるものでした。

若者が生きている「今」と言う時代は親世代の若い頃とは異なっていると理解することが、若者理解の第一歩であること。冷静な第三者の関わりが大切であるため、家族の中で処理しようと思わず相談機関を探ることが問題解決の近道になるとお話いただきました。「心強く、一歩踏み出せる気がした」「家族だけで解決せず第三者に相談できると聞き、心が軽くなった。」と参加者の声。

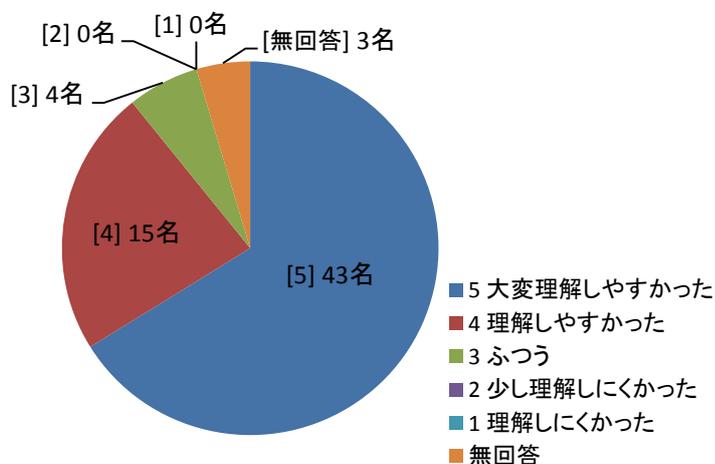
保護者が若者を理解し、彼らに近づける講演会になったようです。

今回の内容は、あなたの期待を100点とした場合、何点でしたか？
(平均89.4点)



※120点を付けた方が2人おり、100点として計算しています。

セミナーの内容について
講義の説明は理解しやすかったか（五段階評価）



宝塚市「市民活動促進支援事業」

2012年度の傾向：

●NPO法人化・起業相談

今年度のNPO法人の立ち上げは8法人、事業拡充が4法人ありました。分野としては、福祉関係が6法人、まちづくり4法人、環境関係2法人。高次脳機能障がい者の社会参加の促進に関する事業や世代間の交流支援、新エネルギーを活かしたまちづくりなど、多様なビジネスが推進されています。また来年度設立に向けて全国規模で父親の家庭参画を促進する団体の関西支部やコーチングを軸にした団体、また地域の個人経営の家電販売店舗活性化を目指す団体などが申請の最終段階を迎えています。

●NPO運営相談

例年4月ごろに多くなる会計報告に関する相談に加え、4月1日に施行された改正NPO法への対応処理に関する相談が件数の中で多くを占めました。4月～5月は各団体が総会に向けての準備や定款変更に向けての準備に関する事。また6～11月は登記関連。理事の抹消登記等手続きに関する説明が主体相談案件です。その後は認定NPO取得に向けた具体的な相談やワムネット等助成金申請及び取得後の活動運営方法について、事業広報、団体労務運営、会計処理など今年も多彩な相談内容がありました。



(1) 特定非営利活動法人の法人化相談支援業務

2012年度に認証を受け設立登記したNPO法人は8法人事業拡充は4団体。また本年度は改正NPO法施行後、兵庫県認定初めての認定NPO法人(宝塚NPOセンター・放課後遊ぼう会)が宝塚より誕生しました。

	法人名	設立月	認証月	事業内容
1	(特活)近畿NPOセンター	6月	6月	・市民生活支援事業 ・市民交流事業 ・地域雇用創出事業 ・市民情報発信事業
2	(特活)トライサングル	6月	6月	・社会参加推進事業 ・障害者自立支援法に基づく就労移行支援事業
3	(特活)宝塚高次脳機能障 害者共生の会	9月	9月	・障害者福祉施策に基づく障害福祉サービス事業 ・福祉に関する地域啓発事業及び調査・研究事業 ・教育機関と連携する障害児とその家族の相談支援や生活支援事業
4	(特活)新エネルギーをす すめる宝塚の会	9月	9月	・再生可能エネルギー利用等を調査・研究し、促進する事業 ・再生可能エネルギー利用等に関する相談・啓発事業
5	(特活)コクーンコンサルタ ンツ	9月	9月	・ファンドレイジング事業 ・NPO団体に対する経営コンサルティング ・社会貢献に寄与する先端技術の研究開発及び普及並びに学術、 文化、芸術またはスポーツの保護や普及を支援する事業
6	(特活)宝塚サージェリー ネットワーク	10月	10月	・伝統芸能・音楽等の文化振興事業 ・農村との交流支援事業 ・生涯学習支援事業 ・高齢者の生活支援事業
7	(特活)TASU-club	11月	11月	・スポーツ振興(テニス)事業
8	(特活)まちの電気屋さんを 元気にする会	3月	3月	・電気小売店の経営体質強化のための支援事業 ・電気小売店を通じた町の活性化事業



トライサングル



宝塚サージェリーネットワーク



新エネルギーをすすめる宝塚の会



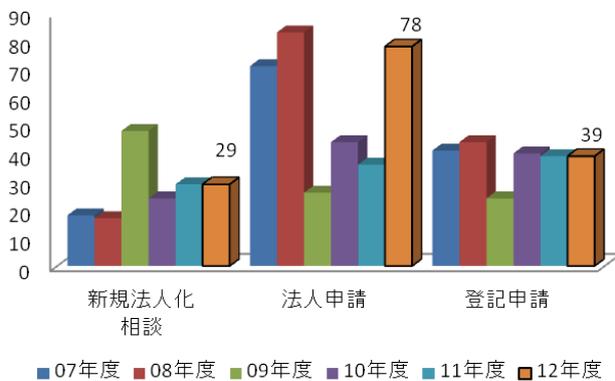
コクーンコンサルタンツ

事業拡充団体

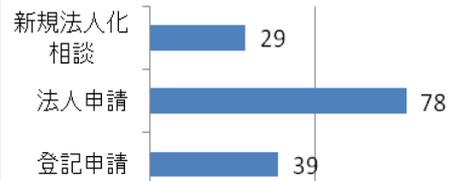
	法人名	申請月	事業内容
1	(特活) ケティーハウス	4月	介護保険法に基づく居宅介護支援事業を拡充。事業の拡大により、雇用の促進と経営の安定化を図ることができる。
2	(特活) エコ・レボリューション	4月	安全・安心な農産物の提供ができることとなり、地域と密に連携するなど、地元住民の理解と協力を得ることができる。
3	(特活) コスモス	4月	障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業、地域生活支援事業を実施。
4	(特活) とことこ	11月	介護保険法に基づく、高齢者事業の追加。

法人化相談の傾向

法人化相談支援業務数 推移表



2012年度法人化相談支援 計：117件



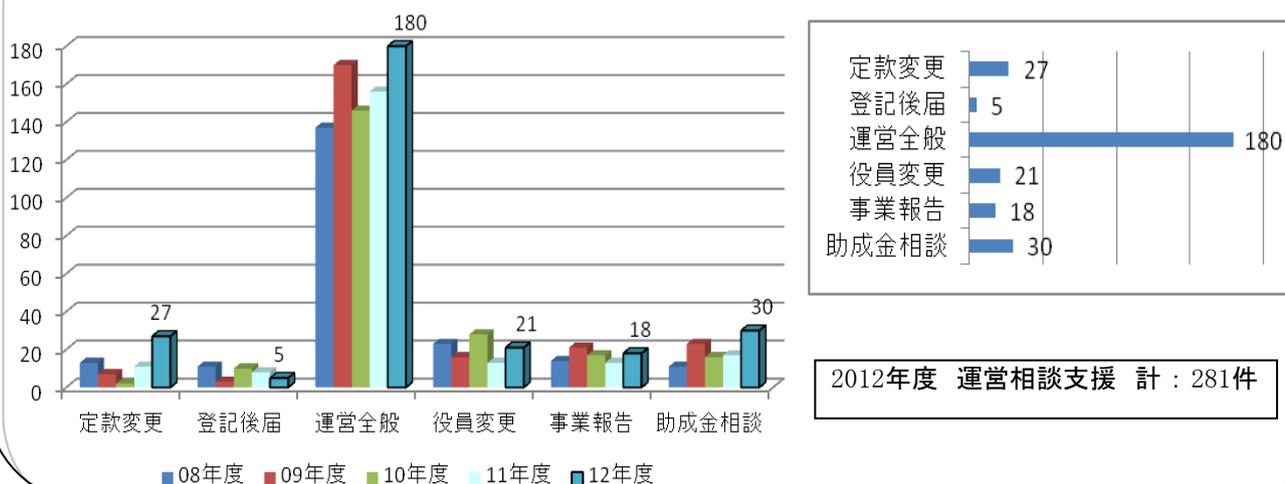
(※件数ベース、業務カード記録からの傾向のため絶対数ではない)

(2) 特定非営利活動法人の法人運営相談支援業務

今年度の相談傾向は事業報告の作成や決算や総会の相談に加えて改正NPO法に関する相談が多くを占めました。

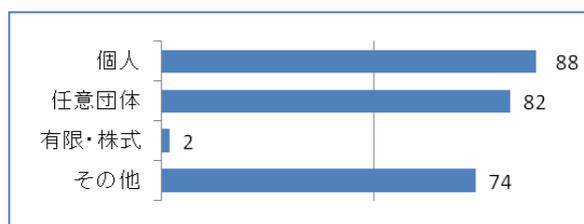
具体的には新会計基準に対応するための相談や定款変更のための総会対応などが挙げられます。他の特徴として助成金情報提供及び申請に向けての支援が増加しました。特に新規設立団体が積極的に兵庫県の離陸応援事業助成へ申請を希望し、相談や書類の確認業務を行いました。

運営相談支援業務数推移表

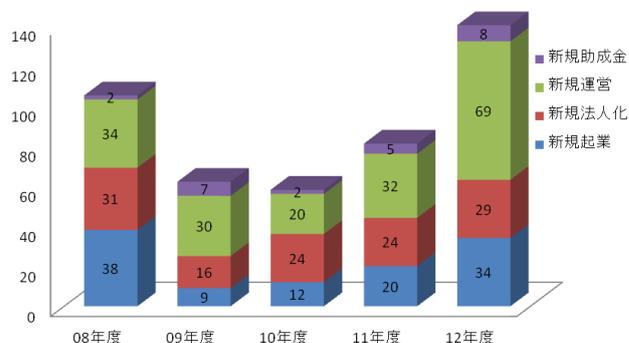


(3) 市民活動団体等のコミュニティ・ビジネス等起業・経営支援業務

CB起業・経営相談数内訳
158団体と88個人



新規相談者数



(4) まちづくり協議会等の自主財源の確保に向けた支援業務

- 独立運営に向けた支援：3団体

その他まちづくり協議会等の相談事例

自主財源の確保に向けた支援としてブログ等を活用した情報発信支援を6団体に18回に実施。



(5) 啓発講座・交流会運営業務

● 市民活動入門講座

① 宝塚NPOネットワーク会議

- ◆ 日時 2012年6月14日 13:30～15:30
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
- ◆ 講師 若林 雄一 進行: 山口 耕平
- ◆ 参加者 15団体・20名
- ◆ 前半は法人にとって関心の高い「NPO法改正」対応に関する内容説明及び注意喚起。後半は各団体自己紹介。普段なかなか意見を交わすことがない団体同士がお互いの活動やつながりを知る良い機会となりました。



② 教えて！NPO

- ◆ 日時 2012年8月25日 13:30～15:30
- ◆ 会場 宝塚NPOセンター
- ◆ 講師 中山 光子
- ◆ 参加者 4名
- ◆ 現在任意団体で活動中の3名と他市行政職員(市民協働推進)の方1名がご参加。うち2名は法人化を目指しています。其々の活動や思いなどを聞きながら事例を交えての講義で参加者からは「疑問そのものが解決した」等の評価を得ました。また宝塚市「きずなの家事業」の紹介も併せて行い今後の参考として頂きました。

③ 宝塚NPOネットワーク会議

- ◆ 日時 2012年9月13日 13:30～15:30
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センターエル
- ◆ 進行 山口 耕平
- ◆ 参加者 11団体・12名
- ◆ 社協・NPO法人・まちづくり協議会などに係わる多様な方々が参加。参加者を三グループにわけ、各テーブル毎にお悩み事からでるテーマについて話すと、3テーブルとも「活動資金について」の話し合いに。互いに学び合い教え合う良質な関係性を築くよい機会となり、継続的に連絡を取り合うことになりました。FM宝塚清水さんからも積極的に活動広報へ協力する旨が述べられました。



④教えて！NPO



- ◆日 時 2012年10月23日 10:00～11:30
- ◆会 場 宝塚市男女共同参画センターエル
- ◆講師 中山 光子
- ◆参加者 5名

◆宝塚ガーデンフィールズ跡地に関する活用についてお考えのある方々、音楽回廊実行委員の方、任意団体代表者、現在ボランティア活動中の方がご参加。任意団体とNPO法人の違いを学んで頂いた。アンケートではどんな社会的目的(ミッション)を持ちどのように達成していくのかの道筋(ビジョン)を明確に持つことが重要であることをご理解頂いた様子。分かりやすい講座であるとの評価を頂きました。

⑤課題解決セミナー 実践編



- ◆日 時 2012年11月28日 13:00～16:00
- ◆会 場 宝塚市男女共同参画センターエル
- ◆講師 森野 和子 (㈱ライフキャリアデザイン・アソシエツ)
- ◆参加者 14名

◆参加者はNPO法人理事長や実務に携わっている方々。答えのない問題に直面した場合やプロジェクト思考にはヨコ型コミュニケーションが適していることや、相手に分かりやすく伝えるためには「ロジカルさ」(根拠や理由)が必要であることを学習。1個人として納得でき理解できたとの感想を複数人数から頂きました。

⑥ 宝塚NPOネットワーク会議

- ◆日 時 2013年1月18日 13:00～16:00
- ◆会 場 宝塚市男女共同参画センターエル
- ◆進行 山口 耕平
- ◆参加者 11名

◆設立して間もない市内NPO法人とある程度経験のある団体責任者、ならびにこれから法人化を目指す団体が参加。自己団体紹介や情報共有、団体を運営していく上での困りごとなどを共有。主な困りごとは「広報をどのようにしていくか」と「お金に対する考え方」。参加者から今後の講座開催に活かしてほしいとの感想がありました。



⑦教えて！NPO

- ◆日 時 2013年3月9日 13:30～15:00
- ◆会 場 宝塚市男女共同参画センターエル
- ◆講師 若林 雄一
- ◆参加者 7名

◆社会福祉協議会にて相談員をされているご夫婦やダンスを子ども達に教えたい方等が参加。本年度法人化された実例を交えての説明を交え法人化するメリット・デメリットなどを分かりやすく紹介。終了後に個別相談を受け付け各自の事業計画の深化に努めました。



●NPO法人相談会×12

随時相談には応じているが、あえて15日と定め広報たからづかに掲載することで、市民に意識を持ってもらえるよう働きかけています。相談日当日に連絡があり、別の日を設定される場合もあり、実際には15日に集中することは少ないのが実情です。

●広報・宣伝・情報提供・インターン相談、ボランティアコーディネート等

NPO法人、市民活動団体はイベントや講座などの集客に苦慮しており、当センターでは広報協力として、チラシの情報コーナーへの設置、市内の公共機関への配布、メールニュースでの発信を行うとともに、ニュースレターの表紙「私とNPO」への掲載やFM宝塚での法人紹介を行っています。

またJC宝塚、文化財団、コミュニティビジネス事業者や自治会活動のチラシ配布やHPなどへの掲載、市への後援要請や広報たからづか掲載依頼方法等の相談業務を含み、内容は多岐にわたります。

東日本大震災の支援活動「お茶っこカフェ」、ソリオ宝塚で行われている音楽回廊やマルシェ、市民活動団体等が実施するイベントへの積極的なボランティアマッチングを行いました。インターン相談としては社会福祉法人晋栄福社会が経営する特別養護老人ホーム中山ちどりと協働で介護の職場体験実習が出来るプログラム構築がありました。



情報発信支援業務：

宝塚NPOセンターニュースレター

回数：4回 部数：各2500部

配布先：宝塚NPOセンター会員、関係団体など

No.	発行月	主な内容
71	6月	・副理事長寄稿「新体制の構築に向けた取り組み」 ・2012年総会報告・2012年度体制・事業紹介 ・総会講演「無縁社会から地縁社会へ」 ・その他(イベント情報)
72	9月	・寄稿「私とNPO」(特活)NPOトライサングル副代表 松永裕介さん (特活)コミュニティアートセンタープラッツ 代表理事 川口 宏美さん ・テーマ記事「いきづらい時代の若者たち」・新規事業紹介 ・その他(イベント情報)
73	12月	・寄稿「私とNPO」(特活)一円電車あけのべ 理事長 中尾 一郎さん (特活)宝塚高次脳機能障害者共生の会 副理事長 益田 剛さん ・テーマ記事「地域・人・団体が育つ」 ・特別記事「県認定第1号の認定NPO法人になりました」 ・その他(イベント情報)
74	3月	・寄稿「私とNPO」(認定)放課後遊ぼう会 理事長 足立 典子さん (特活)新エネルギーをすすめる宝塚の会 理事長 中川 慶子さん ・テーマ記事「次なる一步に向けて」 ・相談・起業情報 ・その他(イベント情報)

・メールニュース 約2500名対象 計28回

(4/10,4/25,5/12,5/23,6/15,6/30,7/13,7/27,8/10,8/24,9/7,9/21,9/27)

(10/5,10/19,11/2,11/16,11/30,12/14,12/19,12/28,1/4,1/11,1/26,2/8,2/22,3/8,3/22)

・FM宝塚「ここにこたからづか」(毎月第1水曜日 11:15~11:45)

6団体のグループが出演し活動紹介やイベントや講座のPRに活用されています。

(6) 行政との協働環境の構築に向けた事業

本年度より市民が参加するまちづくりを目指し、ざっくばらんに情報や意見を交換出来る場として月一度第4 金曜日に「きょう・どう？ 井戸端会議」を開催。参加者は宝塚市民を中心として三田、伊丹、尼崎、大阪、京都・山科より、また年代も20代から70代までと多様な顔ぶれがそろいました。

計11回でのべ157人の方々による井戸端会議は話題も多様。当初は「魅力的なまちづくりが出来ていない」「まちに特徴がない」等漠然とした否定的な意見が宝塚市民を中心に出了ましたが、他市住民からは「中にいるからその魅力に気付かないのでは？」と問われハッとする場面や、「まちづくりはどうあるべき？」という問いに対して「まずは自分の事としてどうするのか考えたい。そして市民主導で行うべき」という結論が出るなど自律・自発性を感じる場面も多くみられました。

参加を機にNPO法人化を目指し、4月に設立を迎える団体代表もおり、当初課題であった「まちの特徴・魅力」を参加者が自発的に見つけていこうとする機運も徐々に生まれています。その際、井戸端会議終盤で取り入れた「マップ作り」というツールは参加者各位が性別・年齢の枠を超えて肯定的にまちの魅力を肯定的に共有でき、関係性構築の手助けになる可能性を感じさせました。



(7) シニア・団塊世代の地域参加事業

高度経済成長期を支えてきたシニア・団塊世代の方々に向けて元NHKエグゼクティブアナウンサーの佐藤誠氏をコーディネーターに迎え「2度目の人生の生き方」と銘うった講座を2回実施。計52名の方が参加しました。

軽妙な講師のトークに加えて、ご自身がシニア世代でもあることから参加者全体に共感が生まれやすい状況となりました。2回を通じて後半を参加者同士の交流会とし、出会いや話し合いの場を設けたところ「身近に同じ不安や悩みを抱える方がいることが分かった。じっくりといろんな方々と話せてよかった。」とのご感想を多く頂きました。

第1回



- ◆日 時 2012年12月2日 13:30～16:00
- ◆参加者 26名
- ◆前半の講演はIMFラガルト専務理事の提言「女性が日本を救う」を取り入れた柔軟な働き方を推奨する内容。後半は地域で「2度目の人生」実践している3名の方から自治会、まちづくり協議会、保育、きずなの家、NPO法人でのボランティアや就労体験を聞いた後に講師、実践者を交えたテーブル毎の座談交流会を行いました。

第2回



- ◆日 時 2013年2月11日 13:30～16:00
- ◆参加者 26名
- ◆副講師：福島達夫(福島労務サポートオフィス所長)
- ◆前半の講演はイギリスのサイエンスライター・マットトリの提唱する「集合知」を踏まえ、「退職者の自由時間は定年までの総労働時間に匹敵する10万時間。如何に周囲と混じり合いながら現在までの知識を活かしつつ前向きに生きていくかが重要」と佐藤先生。後半は年金の話を変えつつ、テーブル毎の座談会。最後にこれからどのように地域と係わっていくか等の行動宣言がテーブル毎で行われました。

宝塚市「若者就労支援事業」

－ プログラム内容 －

① オリエンテーション

- ◆ 日時 6月24日(日)
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
- ◆ 参加者 15名
- ◆ 内容 事業の主旨説明、プログラムの流れ

② 若者就労支援講座STEP① 自己分析講座(全4回)

- ◆ 日時 7月3日(火)～7月18日(水)
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
- ◆ 参加者 13名
- ◆ 内容 働くとは? 自己分析(興味、能力、価値観)

③ 若者就労支援講座STEP② コミュニケーション講座(全5回)

- ◆ 日時 8月21日(火)～8月24日(金)
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
- ◆ 参加者 15名
- ◆ 内容 第一印象の重要性、マナーの重要性、職場でのコミュニケーション身だしなみ、挨拶、表情など

④ 若者就労支援講座STEP③ 就職活動実務実践講座(全6回)

- ◆ 日時 9月11日(火)～9月14日(金)
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
宝塚市立勤労市民センター PCルーム
- ◆ 参加者 13名
- ◆ 内容 応募から採用の流れ、パソコンを使った求人検索と自己紹介書の作成面接対策(身嗜み、マナーなど外見を重視した対策)とシミュレーション

⑤ 職場体験実習前トレーニング(全10回)

- ◆ 日時 10月1日(月)～10月15日(月)
- ◆ 会場 宝塚市男女共同参画センター・エル
宝塚市立勤労市民センター PCルーム/調理室
文化財団法人会議室
- ◆ 参加者 12名
- ◆ 内容 職場実習に向けての心構え、実習先について、コミュニケーション力アップのための調理実習、パソコンでの自己紹介文章作成、実習先を想定したコミュニケーション訓練、個別面談による実習先の決定、職場でのビジネスマナー、トラブル・ストレス対処など

⑥ 職場体験実習

- ◆ 日時 11月～12月
- ◆ 体験先 (特活)ペットフォーライフジャパン、(特活)メインストリーム協会、宝塚市立中央図書館、(特活)こむの事業所、バグダッドカフェ、(特活)トライサングル、中山ちどり、宝塚NPOセンター、シネピピア 大野良平氏アトリエ
- ◆ 参加者 12名
- ◆ 内容 犬猫給餌、募金活動、施設清掃作業、配膳補助、蔵書メンテナンス、カウンター業務、カフェでの接客、調理補助、イベント準備、事務アシスタント、介護補助、アート制作アシスタントなど

